



「情報誌アイム」市民編集委員募集

男女平等参画社会の実現に向けて年1回発行する「情報誌アイム」の市民編集委員を募集します。5月以降、12月の発行予定までに10回程度開催する編集会議(平日昼間)に参加し、企画から取材・執筆・編集・校正まで担当していただきます(保育あり。1歳～学齢前)。応募には、市が指定するテーマに対する意見等の提出が必要です。謝礼は1回につき1,000円。

- ▶対象=3月25日現在、18歳以上で市内に引き続き3か月以上在住の方
- ▶任期=任命の日から令和9年3月31日まで▶募集人数=5人(選考)▶応募方法=3月25日(水)までに電子申請で

■「情報誌アイム」はWeb版になりました

これまで年1回発行してきた「情報紙アイム」は、「情報誌アイム」として電子媒体での情報発信に生まれ変わりました。引き続き、市民編集委員ならではの視点でテーマ選定、取材等を行い発信していきます。

☎男女平等推進課 ☎(528)6801



前立川市長・清水庄平氏が2月1日に逝去

前立川市長・清水庄平氏が、2月1日、肺炎のため80歳で亡くなりました。

告別式は、2月16日に行われました。

清水氏は、平成19年9月8日から令和5年9月7日まで、4期16年間、立川市長として在職し、市の発展に寄与されました。



選挙管理委員会委員の退職・補欠

立川市選挙管理委員会委員長の菊地輝雄氏が、1月31日付で退職し、2月2日付で委員の補欠を行いました。また、2月2日の委員会で、委員長と委員長職務代理を決定しました。

■立川市選挙管理委員会委員

- 委員長 内野良一(幸町)
- 委員長職務代理 丸山 恵(幸町)
- 委員 谷村雅代(若葉町)
- 委員 萩本悦久(砂川町)

《敬称略》

☎選挙管理委員会事務局・内線1631

家庭から出る廃食用油を航空燃料に

●講座 SAFって何？ 天ぷら油で飛行機を飛ばそう！

家庭の使用済み天ぷら油が飛行機の燃料(SAF)になるまでを楽しく学んで、SDGs、脱炭素社会の実現に向けてみんなで取り組みましょう。国内初のSAF製造プラントのVR視聴ができます。

対小学生以上の方 時3月21日(土)午前10時～正午 場柴崎学習館 定40人(申込順) 保若干名(1歳～学齢前)

申2月25日(水)から[保育を希望する方は3月10日(火)までに]電子申請で ☎柴崎学習館 ☎(524)2773

〈上記講座にあわせ廃食用油を回収します〉

SAFの原料となる、家庭の使用済み食用油を回収します。

時3月21日(土)午前9時～正午 場柴崎学習館

☎ごみ対策課・内線6752



●回収ボックスを設置しています

回収ボックスを市施設3か所に設置しています。

- ▶設置場所=▷市役所1階ロビー▷総合リサイクルセンター1階リサイクルショップ▷クリーンセンター管理棟1階エントランス
- ▶回収時間=各施設の開館時間

●廃食用油の出し方

十分に冷ましてから、ふたのついた容器(油の入っていた容器やペットボトル)に入れ、しっかりふたを閉めて回収ボックスに入れてください。ピンは破損の危険があるため使用しないでください。

回収できる油	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭から排出されるもの ○植物性のサラダ油や天ぷら油 (例) 菜種油、大豆油、ごま油、コーン油、ひまわり油、オリーブオイルなど 賞味期限切れ、未使用のものも回収します
回収できない油	<ul style="list-style-type: none"> ×事業活動から排出されるもの ×ラード、バターなどの動物系油 ×灯油、エンジンオイルなどの鉱物油 ×固められた油、食品が入った油 など

☎ごみ対策課・内線6752

ごみ対策課からのお願い

春の突風とカラスにご注意を!

●春の突風による被害 春先は思わぬ突風が吹きます。玄関先などに出した家庭ごみの収集袋が飛ばされてしまうことがあります。

●カラスによる被害 カラスなどによってごみ袋から生ごみが引き出され、散乱するなどの被害が発生しています。カラスは視覚と嗅覚が優れており、色やにおいで食べられそうなものを見つけ、ごみを荒らします。また、食べられるものがごみとして出される場所を記憶し、常習的に狙います。プラスチックにも汚れやおいがついていると、カラスに荒らされてしまうことがあります。

●散らかったごみはどうなる? ごみ収集時に出されているごみが風やカラスによって散乱していた場合、ごみ収集作業員が片づけています。被害にあったごみが多いと片づけに時間がかかり、収集作業が遅れが出る場合もあります。

●市が行っている対策—カラスパトロール— ごみ対策課では定期的にJR立川駅周辺でカラスパトロールを行っています。午前4時30分に集合し、午前5時30分から約2時間パトロールしています。

■ごみを散乱させないためにお願いしたいこと

- ・おもり付きのネットをかぶせるなど、風に飛ばされないようにする
- ・目の細かい防鳥ネットを使う
- ・生ごみは袋の中心部に集めるなどして、カラスから見えないようにする
- ・ごみが防鳥ネットからはみ出ないようにする
- ・重いふたや留め金付きのふたの容器を使用する

☎ごみ対策課・内線6754

